



News Release

2019年9月3日

株式会社九州フィナンシャルグループ

環境省「地域におけるESG金融促進事業」の採択について (株式会社鹿児島銀行)

九州フィナンシャルグループ(社長 笠原 慶久)の子会社である株式会社鹿児島銀行(頭取 松山 澄寛)は、環境省が実施する「地域におけるESG金融促進事業」の支援先機関として採択されましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

当社グループは、2019年2月14日公表の「サステナビリティ宣言」を踏まえ、今後もお客様・地域の課題解決支援を通じ、持続可能な地域社会づくりに貢献してまいります。

なお、グループのSDGsへの取り組みの詳細は当社ホームページ([企業の社会的責任 > SDGs、持続可能な社会発展・環境保全の取り組み](#))をご覧ください。

以上

【本件に関するお問合せ先】

九州フィナンシャルグループ 経営企画部 松野下・大田中

TEL : 099-239-9725

(鹿児島銀行 経営企画部サステナビリティ推進室内)

2019年9月3日

各位

株式会社 鹿児島銀行

環境省「地域におけるESG金融促進事業」の採択について

鹿児島銀行（頭取 松山澄寛）は、環境省が実施する「地域におけるESG金融促進事業」の支援先機関として採択されましたので、下記のとおりお知らせします。

当行は、SDGs視点の取り組みとESG経営の実践による具体的な施策の展開を通じて、各種地域課題の解決を図り、持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

記

1. 概要

事業名称	地域におけるESG金融促進事業 当行は採択された支援先機関として全体構想の策定および金融面や地域活性化支援を実施 全国の地域金融機関より5機関採択（2019年9月2日時点）
事業概要	本事業は、地域金融機関における「ESG地域金融」の促進と、地方自治体との連携による「地域のグリーンプロジェクト発掘」ならびに「ESG要素を考慮した事業性評価」の構築支援を行なう。あわせて、地域課題の抽出や課題解決のための事業化支援を行なうもの。
採択案件名	バイオマス発電による地域課題解決とエネルギーの地産地消モデル構築事業（仮称）
案件概要	<ul style="list-style-type: none"> 畜産が主要産業である肝付町において、畜産糞尿処理は従来からの地域課題であった。その畜産糞尿を地域資源として捉え、バイオマス発電の原料として活用検討するもの。 また、それにより発電された二酸化炭素排出を伴わない電力（CO2フリー）は、肝付町などが出資し、設立した地域新電力会社「おおすみ半島スマートエネルギー株式会社」を通じて地域へ提供するもの。発電した全ての電力を、自営線設営によるマイクログリッド化した地域内で利用することで、エネルギーの地産地消モデル構築を検討するもの。 余剰電力が見込まれる際は、家畜糞尿の一部を乾燥させてペレット化し、園芸用肥料やバイオマス燃料としての販売や、地域内に設置する蓄電池の活用によりエネルギーロス無くす形を検討するもの。 発電プロセスにおいて発生する「蒸気」をエネルギーとして提供することで、蒸気を多用する食品加工業等の企業誘致や、ビニールハウスなど耕種農業等で活用することでスマート農業の実現を図り、「肝付町モデル」として地域活性化を目指すもの。
関連事業者/ 自治体	肝付町（地方創生連携協定締結自治体） おおすみ半島スマートエネルギー株式会社（地域新電力会社、自治体PPS） 株式会社IHI（技術、ハード面支援） 株式会社九州経済研究所（調査事業）

2. 対応するSDGs



目標. 7 再生可能エネルギーの地産地消による脱炭素社会の実現
目標. 8 新産業、雇用創出を通じた地域活性化の実現

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

鹿児島銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室 松野下・大田中
TEL : 099-239-9725 (ダイヤルイン)